

分科会報告 ②-1

1. コーディネーター 福崎真知子
2. テーマ 地域を元気にする食と農
3. 参加者数 10名 (宮城県 1名 山形県 9名) 欠席者1名
4. ディスカッション内容

はじめに

各自の自己紹介を兼ねて、自分が現在取り組んでいる活動や、考えている事などを話してもらいました。メンバーは、大手企業に勤務の方、公務員、文化活動を展開している個人事業主、高校生5名、大学生1名の方々であり学生さんの多いグループで、どんな展開になるのか、少し心配しながらのスタートとなりました。私から事例報告として、昨年地域の伝承料理本を出版したこと、目的は保存食と発酵食をテーマとし次世代に繋いでいきたい食文化であることや、食を司る農業の大事さなどをお話してディスカッションのきっかけを作りました。

内 容

米沢商業高校生が昨年の事業としてシーザードレッシングを開発したこと、現在はアップルパイの生地にはそば粉を用いるなどの開発をしているがその課題などについての、冒頭での発表があり、それをきっかけとして先輩からの経験談や、事例説明、助言などを聞き、ディスカッションがスタートとなりました。

また、他の高校生も米から作られる日本酒をテーマとし、お料理や化粧品など角度を変えた研究をしているなど、大学生は企画構想学科に所属し地域の高校に出かけたり、フリーサークル活動を展開、またパッケージデザインによるブランド事業など、地域に密着した活動の様子もお聞きしました。

この様な若い世代の現在の活動を聞いて、文化面でのお仕事をしている方から実績の紹介と共に、ヒントをお聞きしたりし、彼らと大人世代の良い、刺激の時間となりました。

テーブルコーディネーターの仕事をしている方から食育から卓育への重要性について、例えば食事のマナーや食べ方、テーブルウェア等、今回のテーマに沿った内容をお聞きし、若者も大人世代にとっても大いに参考になるお話もお聞きできました。

公務員の方からは、行政の役目として山形県の魅力を発信して欲しい、行政はその下支えとしての役目を果たして行くという力強いお話しをお聞きしました。

半分以上の時間が高校生の商品開発についての先輩からの意見、提案のディスカッションの時間となりましたが、人生の先輩の話をじっくりと聞いていただきまた、高校生もしっかりと自分の意見を述べて、スタート時の心配はどこへやら、感動のひと時となりました。

このような場に出席する若者は元々、自分の考えを持ち、目標を定めているのだと思いますが、私たち大人もこのような若者が次世代を担ってくると実感でき、お互い刺激し合い、良い勉強になった事と思います。最後にとっても実り多い分科会交流であったと、皆様から感想をいただきました。